

編集室から

知人からの勧めで、あっ！と閃いたので即注文して届いたその日に読み切ってしまった一冊の本。読後、久々に痛快でした。

今まで、なんとなく感じていたことが、順に整理されて、面白い体験談として書かれていますので、とっても読みやすくできています。

普段は、読むのが遅いのですが、二百数十ページを数時間で読了。編集・レイアウトの判りやすさに加え、強烈ですが微笑ましいイラストも効果的。

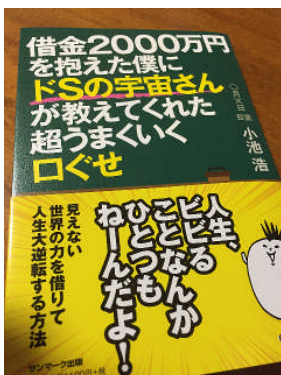
難しい表現、なんだかよく分からないフワフワ系のお話、共に取り付きにくいものですが、この本のようなアプローチでと、共感する方が多いのではないのでしょうか。

実際、初版第一刷は、先月の中旬。手にした本は、その一ヶ月後に印刷されたばかりのほやほやで、既に第六刷目...。書籍の場合、一回の印刷ロットは大体5,000部と聞いていますので、最低でも3万部がひと月で売れている計算です。すごいなあ～。

私自身、「先天性ラッキー症」を自称しているだけに、かなり上手くいっている人生を送らせて頂いている方だと感謝していますが、時に大きな壁にぶち当たり、困惑することがあります。そんな時、これまではもがき、苦しんでおりました。

でも、これからは、この本が教えてくれた事を実践して行けば比較的ラクに突破できる気がしています。

人生、何がきっかけで大転換するかわかりません。時に、直感を大切にして動くのも、良いものです。(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登の夜市」の姉妹店を開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

もちろん、川畠さんご自身もお店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00～24:00

金曜17:00～28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2016/11

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2016/11

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

霜 月



始動したまちづくり風景
旧寺井町地にて
by hama

ふたつめの話に移ろう。

実は、全く別な話というよりも、つながっている話でもある。

結論から言つと、「必ずチャンスが来る」と信じきつていてこそ、じつと待ち構える意識の姿勢を取り続ける事もできる」ということである。

自信が無い人に、「どうやったら自信がつくと思うか」と尋ねたら、なんとという答えが返ってくるだろうか。

「成功体験や実績が付くと、自信も付くんですがねえ」「こんな処だろうか。

一見、正論に思えるこのロジックは、実は大いなる矛盾を孕んでいる。つまり、自信が無い態度で向き合つたら成功につながる行動ができない。そのため、自信の素となると考えている実績・成功体験ができない。「鶏と卵」の逸話と本質的には全く同じだ。

自信なんて無くても実績を積む事はできるし、成功体験をするのに自信なんてさほど重要な役目は果たさない。

では、とうすれば良いのか。

答えは、実にシンプルだ。

目の前の事を、只一所懸命に全力でやり通すこと。たったこれだけ。「え。そんなこと、誰でもできるじゃないか。」と云つ勿れ。こんなシンプルな事を正直に、ある意味愚直にやり続けている人は意外に少ない。だから、「誰にでもできそうだけれど、誰もやっていない」「コトになる。やりきつた極少数の人は、やらなかつた人たちから「凄い人」と賞賛を浴びる。しかし、ただ淡々とやり続けてきただけだと知っている人にとっては、その賞賛はただの戸惑いの種でしかない。そして恐らく、真に理解されていない寂しさを胸に密かにつぶやいていることだろう。「僕にだってできたんだから、本当に誰にでもできるんだけど……な」と。

五輪でトップを競う場合ならともかく、ビジネスの世界は、チャンスの掴み方と、その到来を信じきって黙々とやり続けることだけが「成功法則」だろうと、改めて振り返つてみて思うのである。

先日、当社の株主総会を終えた。早いもので第二十回の節目となる総会だった。

この二十年、自分から行った営業活動が結実した事は一度もない。「縁を頂いたお仕事は総て、クライアントからの照会で頂いたものばかりである。

この実態を知つたある方からは「そんな隕石の落下を待つているようなビジネスモデルはダメだ」とアドバイスを頂戴した事もある。表面的には能天気かつラクな経営をしているように見えるかもしれない。しかし実態は、次の仕事がいっ・何処からやって来るのか皆目判らないから、内心は結構コワイ思いをし続けている。それに堪えられるのは、おそらく只一つ。「必ずチャンスが来る」と信じきっているからなのだろう。

納めた成果が次の仕事の営業をしてくれているというのは、おこがましいが、実際は前の仕事の関係各位からの口コミだけで成り立っている。ありがたいといえば、これほど有り難い事は無い。

既に第二十一期が始まった。

今後も引き続き、宜しくお願い致します。 三拝九拝

二つの話をしようと思つ。

ひとつめは、「普段何をしているか」である。

チャンスとは、不思議なもので、或る日唐突にやって来る。準備ができていないと「チャンスである」と捉える事すらできずに、見過ごし自分だけがそうとは知らず「チャンスを逃す」。周りから見ていると「え？何で？」とビックリしてしまうほど勿体無い話を平然とやり過ごしてしまふ事になる。しかし、本人はその事に全く気づいていない。ある意味幸せかもしれない。

父は、高校で野球をしていた。小さい頃、よく野球を教えてくれようとした。ところが、甲子園でプレイをしたという父の剛速球を受けるのが怖くて、逃げ回っていた。代わりに、知識だけは蓄積し、今でも思い出すことがある。その一つで、講演や研修等で今でも良く使わせてもらっているのが、野手の守備姿勢のたとえ話だ。

投手が投球姿勢に入ると、野手は、ひざと腰をかがめ、前傾姿勢を取る。重心はつま先に。いつでも左右どちらにでも飛び出せるよう、やや内股となる。これらの一連の動作は、打球が何処に飛ぼうとも、體が即反応するようにするためである。

世の中のチャンス（打球の飛来）を待つ姿勢も、これに通ずるものがあるのではないか。ビジネスの世界（野球場）に居るからいいんです」とばかり、ぼんやり突っ立っていて、何処から飛んでくるか判らないビジネスチャンス（打球）に瞬時に反応してキャッチできるはずは無い。

ビジネスの場合、野球と異なり難しいのは、チャンスが飛んでくる（打者が打つ）というタイミングが、事前にはまるでノーサインであることだろう。野球であれば、守備の回に守備位置に立ち、打者がバッターズボックスには入れれば、自分も守備姿勢を取ればよい。しかし、ビジネスの世界では、いつ何時でもチャンスを待ち構える「意識の姿勢」を取り続けていなければならぬ。これは結構しんどい。つい、「休め」の位置に戻ってしまう。

禅や武士道の本に、しばしば「機」という言葉が登場するのは、このことを指しているのかも知れない。現代の言葉で言えばさしづめ「タイミング」ということだろう。これがどれだけ重大な意味を持つものかは、逃したその瞬間に気づかれることは、無い。もしスグに気付いたのなら、逃すことなく掴んでいる事だろう。後からその深意に気づいて、それが大きいほど悔しい思いをするのが、自分を含む凡人の性であろう。

その故に古来、「機」の重要性が語られてきたのだと思つ。この点は、現代においても何も変わる事がない。ただ表現が異なっているだけでないか。曰く「知らない事に誘われたら0.5秒で『ハイ』と言え。時間・資金などの条件は後から考えろ。」とか、「ヒントが来たら0.5秒で掴んで、即実行しろ。」と。

実際、かねてより連絡を取りたいと思つたいた人の顔が浮かんだとき、躊躇無く即刻電話を掛けると、意外にアツサリつながつたりして、こちらがビックリすることがある。こんな時、難しいと思ひ込んでいた話がスナナリ通つたりもするから不思議だ。

「タイミングが合う」ということは、こういうことなのかもしれない。

今から3年半前の平成25年4月20日のこと。第2回電王戦第5局で、三浦八段は「GPS将棋」に完敗した。その翌日、私はブログ「評価関数は名人の読みを超えるのか」で、次のような言葉を並べている。

「コンピュータが新手」「そこからは完全な力負け」

「三浦八段に悪手はなかった」「終局図は衝撃的ですからある」

そこから更にコンピュータは強くなり、三浦八段は三浦九段になった。そして今、彼を主人公とした前代未聞の出来事が、将棋界を揺るがしている。

今年10/12、三浦九段に対する年内の出場停止処分と、丸山九段が竜王戦¹挑戦者となることが発表された。丸山九段との挑戦者決定三番勝負を制した三浦九段は、10/15から渡辺竜王に挑戦するはずだった。

この夏以降、三浦九段に対局中の離席が目立っていたという。日本将棋連盟はスマホ等による不正の疑いがあると、説明を求めていた。三浦九段はそれを否定しているが、「疑念を持たれたまま対局はできない」と休場の意思を示していた。しかし、期限までに休場届が提出されなかったため、連盟は処分を下したということのようだ。

確たる証拠は公表されておらず、「疑わしきは罰せず」というのが基本であろう。しかし、「相当な証拠がない限り、連盟が疑義を示すこと自体ありえない」という論もある程度頷ける。それでもなお、「連盟の勇み足」とか「陰謀論」だとか言う主張に対して全否定するだけの材料を、部外者は持ち得ていない。

いくらコンピュータが強くなったとはいえ、対局中にトイレに立ちスマホを隠し見るとして、そのアプリレベルでプロ棋士にどこまで対抗できるのであるか？ どうやら、終盤の手が限定されるような局面においては、スマホのCPUとアプリでプロ棋士の手助けに十分なるらしい。そして、スマホの先にハイスペックなマシンやアプリがネットにつながっているとすれば...

ネット上で指す将棋の世界では、「ソフト指し」がかなり横行しているようだ。この場合、わざわざトイレにいかなくてもよいが、強いコンピュータソフトの同じ局面における指し手との一致率が高すぎると怪しまれるそうだ。そんなことをして勝って、何がおもしろいのかまったくわからないが。

三浦九段の潔白を信じたい。しかし、もし黒だとすれば、「初めてコンピュータに敗れた現役A級棋士²が、コンピュータの力を不正に借りて公式戦を戦った初めての棋士」ということになる。何とも皮肉なことである。

注1：読売新聞社主催。7大タイトルの中で、竜王位は名人位とともにプロ将棋界の頂点。

注2：A級棋士は名人を入れて11人しかいない。

10月23日(土)からNPBの日本シリーズが始まる訳ですが今年はセリーグが広島カープ、パリーグが日ハムファイターズと広島と札幌のチームによる対決なため首都圏のプロ野球ファンにとっては、少し寂しいシリーズではありますが黒田選手の引退も発表され、正に一年間『神ってる』戦いで勝利を得た広島カープと最大11.5ゲーム差をひっくり返し、来季はメジャー？といううわさもある日本の新たなスーパースター大谷翔平選手を要する日ハムファイターズ。個人的には今世紀もっとも記憶に残る対決になるのではないかと思います。

さてこの大谷翔平選手、久しぶりに出てきたイチロー、松井秀喜に並ぶ野球界における真のスーパースターの系譜を持つ選手だとみています。『スーパースター』とは、古くは長嶋茂雄、王貞治、大鵬といった戦後の日本を盛り上げたスーパースター最近ではマイケルジョーダン、リオネルメッシ、ウサインボルトのようなその競技の世界における歴史の中で圧倒的NO.1として自他ともに認められる存在に与えられています。多くはスポーツ界において用いられる表現であることも特徴です。

ではその条件とは？

競技に取り組む姿勢

逸話・伝説

誰も真似ができない圧倒的な能力

期待を超えるような結果を残す

最後にファンやメディアから愛される人間性

の5つ全てをクリアした人間に与えられる称号だと考えます。すでに大谷君は、、、に関しては文句のつけようがないレベルでクリアしているので、今後のMLBでの活躍や、メディアや社会との関わり方などによって本物のスーパースターになれるかが問われますね。

私の中でのスーパースターは、男ということもあって『ウルトラマン』、『仮面ライダー』、『スーパーマン』がまず浮かびます。正義と愛のために自分を犠牲にして皆を救い、悪に勝つ!!!こんなわかりやすい思想・哲学・美学って、実は大人になって再度心に刺さるこの頃です。多分子供達にとってそんな父親でありたいと思っているからなんでしょうね。

世界では極右政党が勢力を強め、大国ですら内向き(自分さえよければいい)の政策を唱える政治家に人気が集まる時代になりました。宇宙にボツンと浮かんでいる不安定な球体『地球』に住む『地球人』として、共に生きる仲間を大切に思い、手を差し伸べる優しさを人が持てるのか？を宇宙の摂理から問われている気がしてなりません。一人一人が小さなスーパースターに憧れ、称えあえる社会でありつづけて欲しいです。

『富士の国から ~大魔神のたび~』熊本そしてオレンジ食堂の旅
2016/7/21~22 静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

Jネット47と名付けた県庁職員の交流ネットワークが始まって20年が経った。20道県の100人ほどのメンバーで、持ち回りで2年に1回全国大会と称して2泊3日学びと遊びの交流会を開いている。20年も経てば発起人の白橋会長は65歳になり鹿児島県をリタイア、観光連盟の専務理事を務められている。小生だって静岡県を早期に退職し今や小山町職員になっているので、県庁職員だけの集まりではなくなっている。今回初回以来の鹿児島県での大会だ。せっかく鹿児島に行くのなら熊本県に寄ってみよう。そこには「ふるさと食農ほんわかネット」のメンバーがいる。このネットワークが発行する「ドリーム」という情報誌を定期講読しているのだが、ネットワークのメンバーとの面識はない。一度は編集長の高木さんに、そして、いつも面白いお話を書いてくれるゴーヤ洋子さんに会ってみたいと常々思っていた。「7月22日に熊本に伺い、皆様にお会いしたい」とゴーヤ洋子さんにメールしたところ「溝口久さんを囲むほんわかネット暑気払い」を開いていただけることになった。この時は熊本震災前だった。その後、届けられる「ドリーム」には揺れの酷さからはじまり避難所暮らしのことが書かれており、これは熊本に立ち寄ることは諦めなければならぬかなと思っていた。ところが、「復興の第一歩は外に出ること、笑顔すること、です。会費と笑顔を忘れることなく是非ご参加を」との案内が届いた。安心した。

日中に見た熊本市内の震災被害は、特に目立ったものは無かったが、熊本城だけは違った。石垣が崩れ、瓦が落ち、漆喰の壁は亀裂が入っていた。瓦下地の土からはすでに草が生え始めていた。これまでも何度かの修復、再建をしてきた熊本城だ、すでに復興工事は始まっている。いつかきっとその雄姿を目にする時が来るだろう。

さて、夜の小生を囲む会には16名の方が集まってくださった。車で一時間はかかる玉名市から駆けつけてくれたトマト農家の吉田さんと中島さんだけ面識があった。産山村からは、由布院にいた私に会いたいと畜産農家の井さんが。



皆さんのスピーチも軽やかに酔いも気持ちよく回ってきた。こうなるとどうも気が大きくなるせいか、大きなお世話なことを口走ってしまう。

「そば打ちに出向きましょうか？」がそれだ。酔っている先方ももちろんオッケーと言わざるを得ない。こうして来年3月のタコ漁の時期に合わせて行くことになった。産山村はななつ星クルーのリーダー小川さんのご主人が経営する宿もあるので、そこに皆集まるとのこと、これで2泊3日のおぼろげながらのそば打ち交流の旅が決まった。

翌日は熊本から新八代に向かいらしい肥薩鉄道を走る「おれんじ食堂」に乗って川内まで行き、九州新幹線に乗換え鹿児島中央駅に向う、そこからJネット47の行程に参加することにしていた。この「おれんじ食堂」が楽しみだった。

肥薩おれんじ鉄道が走らせているレストランが「おれんじ食堂」だ。このおれんじ鉄道といえば鹿児島県庁の友人米丸剛氏の「オレンジ色の風」が耳の中に自然と聴こえてくる。大赤字だったオレンジ鉄道の応援歌だ。
<https://www.youtube.com/watch?v=DAhHgvq9uIQ>

それが「走るレストラン」を作り、大成功を収めている。2013年3月にスタートさせた。デザインは「ななつ星in九州」の水戸岡鋭治氏だ。小生が乗ったのは熊本県の新八代駅から鹿児島県の川内駅まで九州西海岸を眺めながら、およそ3時間の旅だ。料金はランチ付きで2万1000円だったが、震災復興割引で5000円がキャッシュバックされた。

新八代駅には専用ラウンジがという訳にはいかないが、改札の外で受付の方が待っていてくれた。早速、ホームに降りると何やらワイワイガヤガヤと団体客がいた。台湾からのお客さんたちだ。「おーこの騒々しい集団と一緒にかぁ」と気が滅入ったが、「おれんじ食堂」は、二両編成で、1号車はキッチンがあり、長いダイニングテーブルが置かれ皆で食事するスタイルに対し、2号車はゆっくりと景色を眺められるよう、2人ずつのテーブル席と間仕切りとカーテンで半個室席が設けられている。この2号車に案内されホッとした。他にもう一組いるだけだ。震災による客離れが起きているかな？もっとも金曜日の平日だしねえ。一緒に連れてきた藤枝市役所の河原崎君は相当に興奮気味だ。

ななつ星には及ばないが、内装は相当なものだ。すぐにウエルカムスイーツが出された。テーブルの上にはランチョンマットの他に紙袋が置かれている。何これ？これから先に受け取る土産を入れるためのものと言うことに後で気づくことになる。(つづく)

